

笑顔に寄せて

校長 前田 浩二

2月16日、1年生の白澤璃安さんが天国へ旅立ちました。急性水頭症による脳内出血でした。それは誰にも予測できないことでした。2月12日、普段どおり元気に学校で過ごし、帰宅してからも県外から帰省したお兄さんと一緒にベースギターを演奏して、ご家族でとても楽しい時を過ごされたそうです。ところが、夜中に急に頭痛を訴え、病院で意識を失いました。学校やPTAでは、入院して手術をした璃安さんに何かできることはないかと、1年生を中心に千羽鶴を折ったり、励ましのメッセージを書いたり、録音したりしました。ご両親が璃安さんの耳元でメッセージを聴かせると、意識はないのですが、涙を流したり、脈拍に反応があったりしたそうです。璃安さんは5日間がんばったのですが、意識が戻ることなく、ご家族に看取られながら、眠るように息を引き取ったそうです。

私は璃安さんとは、毎朝、立哨指導の時にあいさつを交わしていました。きちんと立ち止まって、満面の笑顔で「おはようございます。」と元気にあいさつをする姿に、いつも元気をもらっていました。璃安さんの印象について尋ねると、ほとんどの人が、笑顔が真っ先に浮かぶようです。周りの人をきっと明るくしていたのではないのでしょうか。小学校では男子の中で野球スポーツ少年団の副キャプテンとして活躍し、中学校ではソフトテニス部で頑張るなど、スポーツ大好きな活発な生徒でした。一方で図書室に足しげく通う読書好きな一面もありました。趣味も多彩で、魚釣りや楽器演奏等を楽しんでいたそうです。また、自宅での学習に使用する宅習ノートは、きれいな文字で隙間なく書かれていて、お手本として学級で何度も紹介されたそうです。この先、もっといろんなことで活躍していただろうと思うと残念でなりません。しかし、こうして璃安さんのことを振り返ってみると、精一杯生き、みんなから愛され、輝いた13年間だったのだと感じました。そして、璃安さんはよくクラスメートに優しい声かけをしていたそうです。1年生の教室の後ろに彼女が道徳の授業で書いた文章が貼ってあります。そこにはこう書かれています。「・・・みんなで伸びる学級にしていきたいです。」学級みんなのことを思う優しい人柄が感じられます。

これから生徒のみなさんに三つのことをお願いします。一つ目は、璃安さんのことをこの先もずっと忘れないでください。そうすることで、みなさんの心の中でいつまでも生き続けることができます。

二つ目は、璃安さんが目指したみんなで伸びていく学級・学校をつくってってください。みんなで励まし合う優しさにあふれた立神中であってほしいと思います。

三つ目は、璃安さんのように精一杯生きて、自分の人生を輝かせてください。彼女の生き方は周りに笑顔を振りまき、人に優しく接し、様々なことにチャレンジした本当に輝くものでした。最期の時もいつ天国に召されてもおかしくない状況の中、5日間もがんばり、みなさんとお別れする時間をつくってくれました。どうか生徒のみなさんも精一杯生きて、自分だけの特別な人生を輝かせてください。璃安さんの笑顔に寄せて、心からご冥福をお祈り申し上げます。

立神の如く

<人の気持ちを考える>

特別支援学級担任・保健体育担当 福山 成晃

「今の世の中はおかしい」そう感じているのは私だけだろうか。犯罪・暴力・暴言・虐待、いじめ…。人の心を簡単に傷つけ、命を脅かし、命を奪い……。なぜこのようなことが大人も子どもも関係なく、日本中のあちこちで頻繁に起きているのだろう。自分の少年時代を思い返してみると、今よりもまだ人に優しく、人の温かみを感じられる世の中だったような気がする。人を傷つけない、自分が嫌なことは人にはしない、自分のことよりも相手のことを大事にする、困った人がいたら手を差し伸べてあげるなど、親・先生・先輩・地域の方から学び、自然と浸透し、子どもながらに安心して過ごせる環境だったように思う。多くの大人が、家庭でも学校でも地域でも子どもたちのことを我が子のように思い、厳しくそして温かく見守り続けてくれた。様々な子ども同士で触れ合い、喧嘩もしながらお互いを認め合い、理解し合える機会も多かった。

一体何が変わったのだろうか。自分さえよければいい、他人のことはどうでもいい、自分が間違ったことをしても反省することもなく他人のせいにする。そういった自己中心的に考える人が多くなってきているのではないか。今の子どもたちの状況も例外ではないと思う。年々私自身危機感さえ感じている。『人が環境を作り、環境が人を作る。』今の環境を作り出しているのは我々大人の責任であると思う。その責任は自分にもある。今の自分が人としてできているかという、そうではないのかもしれない。だからこそ日々人との関わりの中で、人から学び、自分を振り返り、自問自答しながら己を磨いていかなければならない。私はそのような姿勢を大切にしながら、目の前の子どもたち1人1人と誠実に熱意をもって向き合っていきたい。『人の気持ちを考える(思いやり)』大切さを伝えていきたい。子どもたちが様々な挫折や成功を経験しながら、将来明るく幸せな人生を送ってほしい。今の自分にどれだけのことができるか分からないが、今まいている種が、大きな根を張り、芽を出し、太い幹となり、いずれ多くの花を咲かせるように、全力を尽くしていきたい。

ボランティア活動への参加
—子ども食堂、かつおジョギング大会—

生徒会では、地域貢献活動への積極的参加に取り組んでいます。先日は、子ども食堂“にんぎまんま”とかつおジョギング大会のボランティアに1年生が参加しました。子ども食堂のボランティアの様子は、MBC南日本放送でも放映されました。



第53回鹿児島県中学校音楽コンクール「春の祭典」
—1月18日—

2年生が立神中学校の代表として、春の祭典に出場しました。審査結果は、銀賞でした。当日は、それまでの練習の成果を発揮し、みんなの心を一つに、とてもすばらしい歌声を披露してくれました。

来月の卒業式では、2年生が1年生をリードして在校生がすばらしい歌声を創り、3年生の卒業を祝ってくれることと期待しています。



立志の集い —1月31日—

2年生の「立志の集い」で、青年海外協力隊OBの方の講話がありました。これは、(財)県国際交流協会の「協力隊OBと留学生が先生～見える・学べる・世界の国々～」プログラムという事業を利用したもので、立神校区在住の協力隊OBで看護師として医療活動に従事した深澤幸子さんが講師として来校されました。演題は、「協力隊が見たブルキナファソ」でした。

アフリカのブルキナファソの医療事情、教育事情、真の貢献活動の在り方等について、写真で紹介しながら話してくださいました。また最後に、少しの知識とお金があれば救える命がたくさんあることを知ってほしい、私たちが日々当たり前を送っている生活が、実は特別なことなのだということを忘れないでほしいとメッセージをくださいました。



【3月の主な教育活動予定】

2日(月) 1年平和学習 (知覧特攻平和会館訪問)	13日(金) 公立高校合格発表
4日(水) 公立高等学校入試事前指導	14日(土) 土曜授業
5日(木) 公立高校入試(1日目) 2年クラスマッチ	15日(日) 青パトの日
6日(金) 公立高校入試(2日目) 1年クラスマッチ	16日(月) 朝の声かけ(1-1)
8日(日) 生涯学習フェスティバル	19日(木) 朝の声かけ(1-1) 市民あいさつ運動(立神中)
9日(月) 3年クラスマッチ	23日(月) 公立高校第二次選抜
11日(水) 卒業式予行、卒業式準備	25日(水) 修了式
12日(木) 第26回卒業式	26日(木) 辞任式(9:00～) PTA小中合同送別会 (18:30～)